

女子中高生の理系進路選択支援プログラムにおける参考事例 －実効性ある取組を企画するために－

この資料は、企画を検討する際の参考となるよう、これまでの実施事例をまとめたものです。企画検討の際は、それぞれの地域の実情や実施機関・共同機関の特性等に応じて参照してください。

1 参考となる具体的な事例

(1) 応募に至った背景や課題、目的を明確にすること

※それぞれの地域における課題を踏まえた上で、プログラムの実施を通してどのような課題を解決しようとしているか、目的が具体的かつ明確に示されている

(例1) 地元企業で働く自分の近未来の姿をイメージできることを目指す

(例2) 女性の理系進路＝医療・看護系という保護者の固定概念を変える

(例3) 女子中高生の理系進路選択の全体的な底上げを図るとともに、女子中高生の上級学校進学や理系進路選択が低い特定の地域の保護者や教員の意識を変える

(例4) 文理選択前の、理数への苦手意識が始まる中学生に理系の面白さや様々な理系進路を示す

(例5) 特に進学率が低いとされている、工学系進学を目指す女子中高生を支援する

(2) 継続的に取組が行える実施体制を整備すること

※実施機関内の取組を推進する体制が整っており、共同機関や連携機関として協力する教育委員会、民間企業などの参画内容も具体的であり、支援終了後も継続可能な体制が検討されている

(例1) 対象地域内の女子高校と大学がネットワークを形成し、ネットワークの会議にて、学校行事やニーズを踏まえて企画を検討

(例2) 実施機関の周辺地域とは別に、遠方地域の推進拠点となる共同機関を中心に別途に運営委員会を組織して対象地域をカバーし、校長会、PTA 連合会との共同によって、保護者や教員のプログラムへの参加を促進

(例3) 広域の対象地域をカバーするため、別地域にある高等教育機関と連携し、それぞれの拠点となる都市にてエリアを分担して取組を計画・実施

(例4) 支援終了後の事業継続を鑑み、周辺市区町村規模にて取組を実施、校長会や理科部会などを巻き込み、学校現場との緊密な連携体制を構築

(例5) 男女共同参画推進担当やダイバーシティ推進担当の部署と各学部や学科からの担当で構成する学内組織を確立した上で、自治体の男女共同参画推進などの担当部署、民間企業、教育委員会の担当者などを巻き込みながらプログラム運営の推進体制を確立

(3) 目的達成に向けて実効性あるプログラムを企画すること

※各取組の特性や他の取組との関係性（つながり）を考慮して複数の取組を組み合わせることで、プログラムの効果を高めている

※オンラインを効果的に活用して、アクセス上の課題がある対象者も取組に参加できるように配慮している

※学校や教育委員会と連携し、保護者や教員が参加しやすい日程や機会を捉えて、直接アプローチする取組を実施し、保護者や教員の意識啓発に取り組んでいる

※身近なロールモデルとなる女子学生や大学院生、民間の研究者・技術者を有効に活用している

(例1) 体験型・参加型プログラムと座談会を組み合わせる

TAを務める女子学生や大学生の支援により実験体験を行った後、座談会やサイエンスカフェを実施し、理系の学びや学生生活について、女子中高生や保護者・教員に情報提供を行う

(例2) 理系進路選択に関する学びをステップアップさせるように配列する

理科に対する興味を高める段階から自身の理系進路をイメージする段階まで、地域課題を学ぶプログラムを織り交ぜながら学びを段階的に深化させるプログラムを実施

(例3) 学生や卒業生をロールモデルとして活用する

身近なロールモデルとして学生・OGで構成されるチームを組織して体験実験のTAや座談会で活用したり、学校訪問において卒業生を講師やTAに起用したりするなど、親近感を持たせ、理系女子としての自分の将来をイメージさせる

(例4) 共同機関や連携機関として参画している自治体や民間企業からの人材派遣を活用する

民間企業や地域の産業振興に関わる団体、自治体の研究機関などと連携し、研究施設や工場の見学会、女性研究者・技術者との講演会や交流会を実施

(例5) 学校訪問やSNSを用いて、女子学生が高校における課題探究を支援

(例6) 保護者会、学校説明会、オープンキャンパス、教員免許更新講習など、保護者や教員が集まる機会に、プログラムの趣旨説明、理系分野での女性の就職状況や活躍状況に関する情報を提供

(4) プログラムの周知や成果を普及させるしくみを整えること

※ホームページからの情報発信だけでなく、自治体や学校、教育委員会、企業の協力を得ながら成果を普及させるしくみを考えている

(例1) 学校訪問や出前授業を積極的に実施して、理系進路に関心の薄い生徒を巻き込みながら多くの生徒にプログラムを周知し、関心を抱いた生徒の次のステップとなる取組への参加を促す

(例2) 実施機関が中心となって開催している地元企業、自治体との交流会などの場において、プログラムの成果を発表し、プログラムに対する理解や協力を得る

(例3) 対象地域内の中学・高校や大学の、自然科学に興味を持つ学生たちのクラブ活動などの研究成果を発表するイベントにおいて、理系出身女性のロールモデルのポスターの掲示、理系進路選択や職業に関する質問コーナーを設置

(例4) 内閣府主催の「リコチャレ」のイベントへの出展や、県の男女共同参画イベントへの参加を通じて、本プログラムを広報するとともに、女子中高生の理系進路選択に対する意識調査を実施

(例5) 地元企業のものづくりを紹介するイベントに参加し、プログラムの成果発表や女子中高生向けの体験型イベントを実施

(5) 支援期間終了後も継続できる体制を構築すること

※適正規模、予算、共同機関・連携機関との協力体制などについて、支援期間終了後も継続可能な体制づくりが検討されている

- (例1) 広域での取組を継続するため、取組実施エリアを共同機関と分担する体制を構築
- (例2) 男女共同参画やキャリア形成、学生募集など、学内の事業の一つとして位置づけることで実施予算を確保
- (例3) 学生との交流イベントについて、大学祭の企画として学生会が自主運営する形に発展・継続
- (例4) 女子学生の有志による協力組織を構築し、取組の実施運営に協力
- (例5) 実施にあたって、実施機関オリジナルのプログラム愛称を作成、地元メディアと協力し周知を図ることにより、実施地域におけるネーミングブランドを確立
- (例6) 支援期間中の活動実績をもとに、民間団体からの助成金を申請・獲得
- (例7) 自治体や教育委員会との連携を通じて、取組内容をそれぞれの機関の事業として位置づけられるよう調整し、支援終了後の実施予算の確保・取組の継続を図る
- (例8) 学校現場における進路相談イベントやキャリア教育の機会と連携することにより、継続的に取組を実施
- (例9) 地元企業との連携により実施体制を構築したことにより、無料の講師派遣や見学会等の取組を継続

2 企画の際に注意を要する事例

- (例1) 中学生向けの取組を企画したが、中学校の試験期間や部活動の大会日程と重なってしまい、参加者が集まらなかった
 - 教育委員会や学校と緊密に連携し、学校行事や大会日程などを予め把握した上で参加しやすい日程を検討する
- (例2) オープンキャンパスの開催に合わせて、講演会を実施したが対象の中高生の参加がなかった
 - プログラムの周知期間を十分確保し、学校等を通して女子中高生に周知する
 - オープンキャンパスの参加者が講演会にも参加できるように、オープンキャンパスのタイムテーブルと調整する
- (例3) 生徒、保護者・教員を対象に企業見学会を実施したが、保護者や教員の参加が予想以上に少なかった
 - 企業側の受け入れ可能な期日と生徒の参加可能な長期休業中の日程を調整する
 - 保護者・教員の参加を促すため、早めに周知するとともに教育委員会、校長会、PTA 連合会に対して積極的に働きかけ、理解や協力を得る
- (例4) サイエンスキャンプの申込が予定数を上回ったため、各コースに割り振る人数を増やして全員を参加させたが、指導の目が行き届かなくなってしまった
 - 参加型・体験型学習を通して理系への興味を高めるためには、主体的にプログラムに関われるように適正規模で実施することが重要であり、参加希望者が定員を上回った場合の参加者決定方法など対応を予め検討しておく

(例5) 専用のホームページを立ち上げてプログラムを周知し、ホームページを通じて申し込むようにしたが、申込が少なかった

- 出向いて行う取組を実施した際に、今後のプログラムやホームページについて周知する
- 様々な広報手段を用いてプログラムを周知するとともに、ホームページの存在についても周知を図る
- 実施した取組の報告をホームページから積極的に情報発信するとともに、今後の取組予定など新しい情報も早めに掲載し、ホームページへの関心や情報源としての価値を高めておく